

釣りの秘訣

パートVI

釣りの歴史 ①

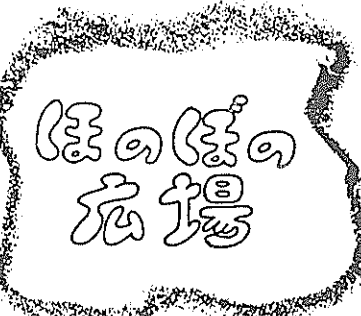
趣味

釣りの秘訣を数回にわたり述べてきた。これ以上書くとな下の長談義になる。この辺で終わりたい。最後に釣りの文化すなわち歴史を書いてみたい。

まず、文化ということについて辞典で調べてみると「世の中の開け進むこと。人類が自然を材料とし一定の目的に従い理想を実現する過程すなわち新成、便利、発展」それは釣りにもいえる。陸においては稲作脱穀機の発展をみて分かる。くしのような竹製か足踏

み輪転になり、今日の動力機になった過程が文化である。

舟釣りにおいても、直接糸を手で持つて舟から沈めて釣ったものである。今でも漁師には手釣りがある。この手釣りでは釣りの初めに、これを改良したのが土佐のギリ竿である。幕末土佐の藩主山内容堂公の釣りの従者藩士六戸直馬氏がギリ竿を発明し、舟から遠くへ投げて釣ることができるようになった。一大革命である。



ギリ竿というのは、当時は絹糸へ波を引きそれを五尺あまりの女竹に節ごとに金の管を付けてあり糸を投げるつどギリギリと音を発したものでギリ竿の名ができた。以来明治、大正、昭和と土佐のギリ竿で名を広めた。終戦後は今日のリール竿に発展したが、原理は六戸直馬氏のギリ竿にある。文献によると、六戸直馬氏は高知市中島町にて天保九年に生まれ

明治四十五年、七十歳で死去。板垣さんや片岡健吉さんと知友であり、当時釣りの名人であった。大野勇元高知市長著高知の釣文化より。

ちなみに釣竿の原木は安芸郡椎名の竹が最上とする。それは海岸に生え、ときに砂が根もとに波によって運ばれて堅く育ち、節合が短く年輪が入っている(今日ではギリ竿を作る職人がほとんどいない)。当時それに使うしずやまは武

図書館だより

新刊案内

- 週末の恋(落合重子) ▼ ニューメディア時代への警告(橋本尚)
- ▼ 歴史の舞台(司馬遼太郎) ▼ 大相撲殺人事件(岡田光治) ▼ 風の盆恋歌(高橋浩) ▼ 浪びの狂詩上(沢木耕太郎) ▼ アフリカのトットちゃん(黒柳徹子) ▼ 岐路にたつ国鉄(赤旗国鉄問題取材班) ▼ ポー内申書見えない鎖(佐藤章)
- ▼ 石の座席(堀秀彦) ▼ 昭和60年度代表作時代小説(日本文芸家協会編) ▼ 日本の名随筆30冊(梅原猛) ▼ 選定図書目録1985年版(日本図書館協会) ▼ 「悪魔」と「人」の間(下里正樹) ▼ メロドラマ 村松友規 ▼ 都市と田舎(宮田登)
- ▼ 青春(松崎運之助) ▼ 地方自治のはなし(中西啓之) ▼ 倉橋由美子の怪奇草紙(倉橋由美子) ▼ 津波の心得(山下文男) ▼ 娘たちへ(滝いく子) ▼ 誰も書かなかったソ連(鈴木俊子) ▼ 我が闘争こけつまるびつ(野坂昭如) ▼ ナース・ステーション(野坂昭如) ▼ ナース(酒井一博) ▼ 地方自治法ハンドブック(議会と自治体誌編集部編)
- ▼ 地方自治と地方財政(高橋健次) ▼ 牛山羊の星座(イスカンデル) ▼ 水平運動史の研究6(部落問題研究所編) ▼ 日本の食生活全集(聞き書新潟の食事(本間伸夫) ▼ 新人生論ノート(1)(山) (高田求) ▼ 続々読ばなし集(河野裕) ▼ ドナウの旅人(中) (宮本輝)

士の内職にしていた。私の知っているところでは土佐山田植地区の高芝某が最後であったと思う。なお、今日いうハリス。当時はテグスといっていたものは、台湾または海南島から輸入し淡路島の商人が加工して全国に販売していた。これもナイロンの出現によって全然止まった。しかし長所もある。山繭(天蚕)に加工したもので水に入り強い。(つづく)

ご家庭で話し合せて答えてください。答えは、この広報に出ています。

■ もんだい・第十七回市民賞に、今年個人〇人が選ばれました。

■ しめきり・11月15日

■ あて先・〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■ 答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

■ 賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第165回当選者発表(敬称略)

(応募総数32通)

■ 答え・ 〇

■ 当選者 五人

尾崎美和(大地)

福島恵子(片山)

細川寿万子(千市)

刈谷京子(里改田)

服部由香(比江)

そのかわいさをいつまでも

西森 律(後免町)

私、先のころ職務上、市内の学校、幼稚園視察の一員として同行いたしました。

終えた子供たちが楽しそうに遊んでいる教室へ入りました。子供たちの中には、見知らぬおじさん、おばさんが何をしにきたかと言わんばかりに私たちを見つめる子、食事を片づける子、掃除の道具を取りに行く子などさまざまでした。私たちは教室に入り、立ってその子供たちの様子を見ておりました。そのとき、一人の年長組らしい女の子が、教室の隅に片づけてある小さなすを一つずつ私たちに所へ運んできました。小さなすでも、その子供さんにとっては力いっぱい一つまた一つと私たちちみんなに持って来てくれました。思いもかけないそのかわいしぐさに私たちも「ありがどう、ありがどう」と言って、その小さなすに座りました。男の大きな方は体のはみ出す程でした。その子

供さんは、さつきと次の掃除に取りかかりました。私たちは、そのいすに座って子供さんたちの掃除の様子を見、先生との懇談を終えそこを去りました。私たちが帰ろうとすると子供さんたちが玄関に来て「さよなら、さよなら」といっても手を振ってくれました。私は今でもいすを持ってきてくれたあのかわいしぐさを思い出して、よい指導を受けた子供さんたち、このしぐさこそとりもなおさず他人への思いやりにつながります。どうかいつまでもこの気持ちを忘れず持ち続けてほしいと、祈らずにはいられません。

『ほのぼのの広場』に、あなたの身の回りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。

▼ 投稿先・〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市役所広報委員会まで。

役得

南国歌壇

- 十六夜の月にかかりしうらご雲 照明に教材の鶏とまどいて
- 大河の如くゆるやかに行く 時ならぬ声高く張り上げ
- 西島 岡林きよ 大浦 田所志な
- 雨多く夏過ぎにけり山畑に 一瞬の事故に命を奪はれし
- 秋の茗荷の花の明るさ 君の罪に沁む秋の高
- 西野田 吉川定子 西島 高橋佐代
- 秋深み花狂い咲く佐田岬 大宮の尾根一望に惜しみなく
- ウラン二三五脳裏に刻む 錦絵に染む層雲の峽
- 篠原 山本 茂 前浜 沢田千恵子

南国柳壇

- 晴着をば脱がうとせす七五三 立田 北村幸江
- しのびよる冬がもの云うすま風 十市 大家寿恵子
- 見渡せばそば一面の銀世界 西島 高橋君子
- ファッションの街で熟年ほみ出され 古市 島田稔子

南国俳壇

- 北川京子(天狼句会)
- 桜井美代()
- 中村祭生()
- 小笠原芳美(おがたま会)
- 二宮電子()
- 二宮弘代()
- 鍋島幸夫(稲生葉月会)
- 浜田美知()
- 沢本吉子()